

# 盆栽にふれよう香川っ子 ～女子大生が伝える地域の魅力～

代表者 首藤 沙希 (経済学部地域社会システム学科3年)

## 1. 目的と概要

現在、海外では、日本の文化や伝統工芸に対して『cool japan』と評価されており、その中で盆栽も『BONSAI』の表記で海外からの人気が高まっている。

一方、国内では香川県高松市は松盆栽の全国シェアの8割を占めているにもかかわらず、高松盆栽の認知度は低く、若い世代には親しみがない、後継者不足という問題を抱えているのが現状である。これらの背景には、一般的に盆栽に対して抱かれる「男性」「高齢者」「高価」のような親しみにくいイメージの影響があると考えられる。

そこで、このプロジェクト事業はこれらのイメージとは正反対の私たち女子大生が、プロの盆栽作家と、盆栽に興味を持つ初心者とを繋ぐ架け橋のような存在となり、高松盆栽の認知度向上を目指すものである。本年度は、対象を主に小・中学生とし、イベントの参加やワークショップを開催した。



## 2. 実施期間 (実施日)

平成30年6月21日から 平成31年3月31日まで

## 3. 成果の内容及びその分析・評価等

私たちのプロジェクトでは、今年度も香川県内を中心に様々なワークショップに出展したが、今年度の学生支援プロジェクト事業の中心である「小・中学生を対象としたワークショップの開催」については、開催回数という観点からは以下の2つのイベントで計3回を開催するに止まった。しかし、参加者数という観点からは、数多くの子供たちに参加していただき、高松盆栽の魅力を伝えることができたと考えている。

1つは、「ぐるぐる商店街」である。当イベントは、高松商工会議所が主催となり、高松中央商店街を会場として行われたイベントである。和三盆や讃岐ちようちんなど、地域産物のワークショップや飲食ブースが出店し、スタンプラリーも開催された。本プロジェクト事業は、苔玉作りとしてイベントに参加した。今年度に3回（8月、10月、12月）実施されたイベントで、本プロジェクト事業は8月10日（金）と10月13日（土）に2回出展した。特に、8月は小・中学生が夏休み期間ということもあり、多くの子供や家族連れが商店街に足を運び、黒松や五葉松の苔玉作りを体験した。私たちのワークショップは、事前予約制で定員を70名としていたが、予約はすぐに埋まり、当日参加を希望する方も現れるなど大盛況だった。

もう1つは、大町コミュニティセンターでの盆栽講座である。当イベントは小学校高学年を対象とした桜の苔玉作り教室で、2月23日（土）に高松市牟礼町の大町コミュニティセンターで実施した。当イベントの準備を進める際に、牟礼町の3つの小学校でのチラシ配布や、コミュニティセンターの盆栽クラブの方々への協力依頼など、大町コミュニティセンターの方には非常にお世話になった。

このプロジェクト事業により、小・中学生を中心に多くの方が盆栽に触れる機会を創出することができたと考える。また、イベントの出店や開催にあたって、様々な地域の企業や団体の方々につながることもできたため、今後もこのつながりを大切にしていきたい。



（ぐるぐる商店街でのワークショップ）



（大町コミュニティセンターでの盆栽講座）

#### 4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、高松盆栽の認知度向上だけでなく、香川大学 Bonsai☆Girls Project の認知度も向上したと感じている。その背景としては、昨年度に引き続き今年度もメディアに取り上げていただく機会が多く、香川大学のプロジェクトの1つであることもPRすることができたのではないかと考える。具体的には、NHKの海外向け番組である「NHK WORLD」での出演や、雑誌「近代盆栽」での掲載が挙げられる。

また、昨年度から鬼無グリーンフェアに参加するにあたり、事前に地域の盆栽作家や植木職人と話し合いの機会を作り、お互いに意見交換を行っている。イベントの打ち合わせはもちろんのこと、高松盆栽に対する思いも伝え合い、今後の高松盆栽の発展に地域と一体となって活動することを目指している。そこで、学生ならではの SNS を用いた新たな PR 方法を提案すると、驚きと同時に好意的な意見を持つ方も多く、イベントにおいて実際にその PR 方法が用いられることもある。

#### 5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

「ぐるぐる商店街」では、高松商工会議所の方々と話し合いを重ねて、当日の流れや盆栽がいくつ必要なのかなどを考えて意見を出し合い、実践的に考えて行動する力がついた。また、大学の近くの高松中央商店街で開催されたイベントということで、地域産物が多く出店されていたため地域への愛着も強くなった。

大町コミュニティセンターでの盆栽講座では、小学校高学年を対象としていたため、主に大人を対象とする普段のワークショップでは気づくことの出来ない、子ども目線からの盆栽作りの難しさがわかった。そのことから、様々な視点から考えることの重要性を感じたため、今後の活動においても活かしていこうと考えている。

どちらの活動も地域の方々の協力のもとで成り立っている。社会人と接する機会を持つことができたため、礼儀やマナーに対する意識をさらに高めることができ、大変有意義だった。

## 6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

反省点として、2点挙げられる。1つ目は、イベントの企画が遅かったことである。今年度は、初めて参加するイベントやワークショップが多くあった一方、その分、イベントの計画や企画が遅くなってしまった。来年度以降は、新しく始めたイベントやワークショップを今後も続けられるよう、念入りな準備と企画を行うようにする。2つ目は、年度末の予算執行が多かったことである。上記の反省点とも重なるが、短期の計画ではなく、長期のスパンで計画を立てる必要性があった。来年度は、活動の計画と実行力の双方に重点を充てて活動していく。

今後の展望は、継続的活動と新規的活動を二極化して、双方を並行しながら活動する予定である。継続的活動としては、女性限定の盆栽教室と SNS の活動の2つが挙げられる。女性限定の盆栽教室では、従来の参加者の口コミやコミュニティを1つの情報源とし、更なる普及活動に努めたい。また、SNS では、特にInstagramによる情報発信は来年度も継続して行う予定である。Instagramのフォロワー数は10,000人を超えており、国内外を含め多くの世代の方にアプローチができていると考えられる(2019年3月末現在)。今後は、BGPの活動の投稿をメインとしつつ、Instagramでの新しいアプローチ方法を模索していきたい。新規の活動としては、毎年参加している鬼無グリーンフェスタでのフォトコンテストの開催が挙げられる。昨年度までは、ワークショップがメインだったが、今後は、今回のフォトコンテストの開催及びチラシ作成など、新しい形で高松盆栽の魅力発信に努めていきたいと考えている。



## 7. 実施メンバー

代表者	首藤 沙希 (経済学部3年)	
構成員	尾山 絢菜 (経済学部3年)	大久保 愛 (教育学部1年)
	井上 七海 (経済学部3年)	喜多村 春那 (法学部1年)
	伊藤 里歩 (経済学部3年)	近藤 愛鈴 (創造工学部1年)
	佐野 実怜 (経済学部3年)	角田 綾花 (経済学部1年)
	十亀 稔理 (経済学部2年)	福田 里緒 (経済学部1年)
	細川 未奈 (経済学部3年)	森井 琴美 (経済学部1年)
	神野 玲菜 (経済学部2年)	山村 明日花 (経済学部1年)

## 8. 執行経費内訳書

配分予算額		196,000円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
盆栽代(しのぶ玉)	30	2,160	64,800	
スケッチブック	1		1,498	
盆栽代(もみじ)	20	2,160	43,200	
盆栽代(黒松)	10	2,160	21,600	
交通費(JR)	4	220	880	
盆栽教室代	5	2,000	10,000	
交通費(JR)	5	220	1,100	
盆栽教室代	3	2,000	6,000	
子供用ビニール手袋	1		720	
消しゴムハンコ	1		750	
収納BOX	3	1,950	5,850	
盆栽用飾り (ミニチュアうさぎ)	1		750	
盆栽用飾り(目玉)	2	250	500	
ひざ掛け	1		1,400	
盆栽代(さくら)	15	2,160	32,400	
合計			191,448	